

# 課題設定や、思考を揺さぶる「第二の発問」で、 個の思考を深め、議論の活性化につなげる

## 福井県 福井市明倫中学校

2015年度から、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図っている福井県福井市明倫中学校。2021年度は、「自らの問いをもつ」「他者と共に豊かに学ぶ」の2つを研究の視点とし、意見を認め合うことから一歩踏み込み、互いの意見に疑問を出し合い、批評や反論をすることで、自らの考えを練り上げる協働学習を目指している。生徒の疑問を基に学習課題を設定したり、「第二の発問」で考えを揺さぶったりする工夫により、学び合いの質が高まっている。



◎校訓は、「誠実 節度 実践」。学校教育目標に「未来を切り拓く生徒の育成」を掲げる。部活動も盛んで、ハンドボール部や柔道部などが全国大会に出場。同校の授業改革は、『問い、対話、振り返りによる中学校の授業改革』（田村学著、小学館）で紹介されている。

開校 1947 (昭和 22) 年  
校長 小林孝史先生  
生徒数 760 人  
学級数 26 学級 (うち特別支援学級 2)

### 4つの部会で、生徒が安心して 発言できる授業づくりを研究

福井市明倫中学校は、2015年度より、福井県及び福井市教育委員会から研究指定を受け、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組んできた。重点を置くテーマを毎年変えながら研究を進め、指定終了後は重点を「創造力」「探究力」に移し、授業づくりを進化させている(図1)。

研究体制は、全教員が、「授業づくり部会」「居場所・絆づくり部会」「集団づくり部会」「地域づくり部会」のいずれかに所属。研究主任や各部会長らによる「研究推進委員会」が全体を統括する。小林孝史校長は、4つの部会が授業づくりを支えていると語る。

「安心して発言できる雰囲気が教室にあってこそ、協働的な学びは成り立ちます。そうした生徒の学びを支えるものとして、『居場所』や『集団づくり』を重視しています」

福井県では、1人の教員が複数学年の授業を担当する「縦持ち」を基本としている。同校も、例えば社会科では、6人の教員が3学年24学級の

授業を分担する。そのため、時間割に週1回の教科会を組み込み、学年ごとの情報共有や連携を図っている。

### 生徒の話し合いで出された 疑問を、次時の学習課題に

2021年度は、研究主題を「自らの問いをもち、他者と共に豊かに学ぶ生徒の育成」とし、「自らの問いをもつ」「他者と共に豊かに学ぶ」の2つの視点で研究を進めている。2020年度末に行った生徒の特徴の分析結果では、よい面として、「真面目に落ち着いて学習に取り組む」「与えられた課題に自分の意見を持ち、伝え合うことができる」などが挙げられた。一方で、学習内容に新たな疑問を持つことが少なく、話し合いでは異なる角度からの意見を述べることに消極的な姿が課題とされた。研究主任の岩本鷹薫先生は、研究のねらいをこう説明する。

「互いの意見への疑問や矛盾を素直に伝え、批評や反論をすることで、個々の考えが深まり、新たな関心や疑問が湧いて、それが次の学びに発展していきます。互いの意見の認め



校長  
**小林孝史**  
こばやし・たかし  
同校に赴任して1年目。



研究主任  
**岩本鷹薫**  
いわもと・まろか  
同校に赴任して5年目。  
社会科。1学年担任。



授業づくり部会長  
**浅川健一**  
あさかわ・けんいち  
同校に赴任して1年目。  
理科。1学年担任。

合いから一歩踏み込んだ協働学習にする仕かけが必要だと考えました」

その仕かけの1つが、生徒が当事者意識を持てる学習課題の設定だ。

「単元の導入時に班で調べ学習を行い、各班が調べた結果を対比します。出てきた疑問や矛盾を基に、その後の授業の学習課題を設定するといった工夫をしています。『知りたい』という意欲が湧き、意見の交流が活発になります」(岩本先生)

例えば、理科では、身近なものを理科的視点で捉えさせたり、実験であえて失敗をさせたりしていると、理科担当の浅川健一先生は語る。

「光の単元では、水に入れた指が短く見えることを実体験させるなど、生徒が疑問を持てるようにしました。また、手順の説明を簡略化して実験をし、教科書と異なる結果が出た理由を考えるといったこともしました」

社会科担当の岩本先生は、思考ツール（巻末のキーワード解説参照）をよく使う。考えを可視化することで互いの意見への理解が進み、話し合いでも疑問が出やすくなったという。

### 授業づくりに「第二の発問」を組み込み、思考を揺さぶる

「第二の発問」も、一歩踏み込んだ協働学習にするための仕かけだ。導入時の課題（第一の発問）に対して、班ごとに異なる意見が出たら「各班の意見を比較しよう」と問いかけ、意見が似ていたら「こんな資料もあるけれど、どう思う？」などと発問・切り返しを通して、生徒の思考を揺さぶる。

「これまでも教員は、生徒の発言に対して切り返す問いを発していましたが、それを戦略的に授業に組み込んだのが『第二の発問』です。生徒全員が思考の階段を自ら2段目、3段目と上れるようにし、議論の活性化や個人の思考の深まりにつなげることを意図しています」（岩本先生）

岩本先生は昨年度、1年生の地理でオーストラリアと中国との良好な貿易関係を扱った後、「第二の発問」で、コロナ禍の対応を巡り両国がけん制し合っているという最新ニュースを提示。「オーストラリアはこの状況にどう対応すべきか、自分だったらどうするか」と、生徒に問いかけた。

『貿易面や観光面を考えて、友好

図1 校内研究における「育てたい力 目指す生徒像」の発展

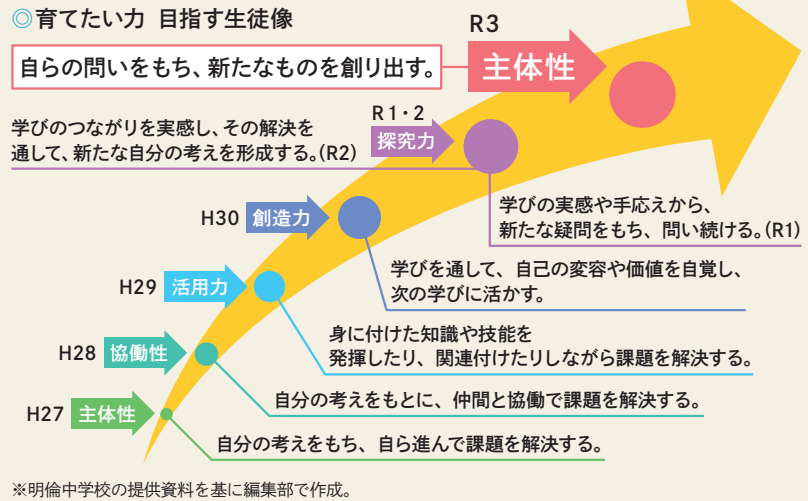
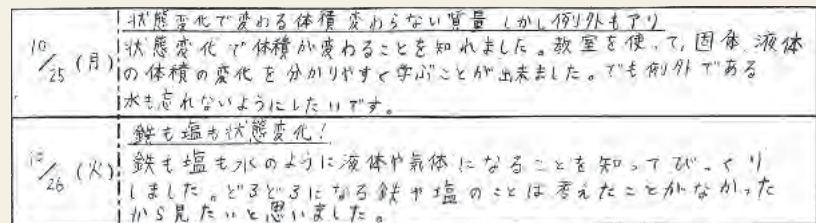


図2 理科「レベルアップを実感できる紙」1年生の記入例



※明倫中学校の提供資料を抜粋して掲載。

関係を続けた方がよい』『中国との関係が不安定なら、他のアジアの国との関係を強めた方がよいのではないか』などの発言がありました。生徒は、学習内容を現実の社会と結びつけ、深い考えを示していました」（岩本先生）

「第二の発問」は、単元計画の際に生徒の発言を推測し、どのようなねらいで、どの場面でどのような発問をすればよいかを事前に吟味している。

「授業は生き物ですから、予定とは異なる切り返しが必要なこともあります。そのため、各教員の授業力を高めています」（小林校長）

### 振り返りをしやすいよう、教科別に手法を工夫

振り返りは、学習内容の確認に加

え、自己の変容や既習事項との関連を自覚する機会として重視。視点を提示したり、条件を絞ったりするなど、各教科が様々に工夫する。理科では、毎時間の振り返りを「レベルアップを実感できる紙」に書き、自己の変容を俯瞰できるようにしている（図2）。

「振り返りの前には、席が近い生徒同士で授業の感想や疑問を、必ず1～2分間話すようにしています。短時間でも他者に話し、頭の中を整理してから書くことで、文字量が増え、内容の質も高まります」（浅川先生）

社会科では、単元の最初と最後に同様の発問をしている。

「江戸時代がどんな時代かを問うと、単元の最初は、『徳川家康が築いた武士の時代』など、小学校の学習内容を答える程度ですが、最後には、

幕末に活躍した地元の偉人などを絡め、明治時代への移り変わりも捉えて書けるようになります。振り返りでは、協働学習によって視野が広がり、考えが深まったことを自覚できるような構成にしています」(岩本先生)

### 多様な意見に触れて、 個々の問いへとつなぐ

以上のような工夫をしながら、同校では全教科で、「個別学習→協働学習→全体共有→振り返り」を、授業の基本スタイルとして確立している。「教科学習でも、探究的な学びを規模の小さいサイクルで回すイメージです。その経験が『総合的な学習の時間』のような教科を横断する探究学習につながっていくと考えています」(小林校長)

浅川先生は、1年生の火山の単元を、生徒の疑問を学習課題にして展開しようと考え、単元初回の授業を行った(授業レポート1~6参照)。

図2 1年生 理科「火をふく大地」1時間目の配布資料とワークシート



資料は、15種類。「伊豆大島火山」「雲仙普賢岳」「桜島」に関する①火山の形、②色、③噴火の様子、④火山岩、⑤深成岩の各5項目を作成。生徒は、このうちの1枚を手にした。

火山名	雲仙普賢岳	伊豆大島火山
山の高さ	1577m	1617m
山の形	円錐形	円錐形
噴火の様子	噴火の様子	噴火の様子
火山岩	火山岩	火山岩
深成岩	深成岩	深成岩
その他	その他	その他
疑問点	疑問点	疑問点

※明倫中学校の提供資料を一部改編して掲載。

本時の課題を確認した後(1)、火山に関する先生自作のA4判1枚の資料(図2左)を配布。学び合いを前提に、個人で調べ学習を行った(2)。次に、学習班\*で各自が調べた内容を共有し、分かったことをワークシート(図2右)に記入した(3)。

浅川先生は、配布資料の上半分は、火山の仕組みと鉱物に関する内容で統一したが、下半分は3つの火山に関する5項目の異なる内容とし、全15種類を用意した。1クラス32人のため、全く同じ内容の資料を手にするのはクラス内で2~3人しかいな

## 授業レポート 単元の問いづくり

### 1年生 理科 単元「火をふく大地」(本時は、全6時間中の1時間目)

本時の目標 楯状火山、成層火山、溶岩ドームの3種類の火山の共通点や相違点に気づき、本単元の学習

#### 1 本時の課題を提示 7分間



浅川先生は、電子黒板に噴火する火山の動画などを映し、本時から火山について学ぶことを説明。生徒からは「トンガで噴火があった」「富士山も火山だ」などと声が上がった。「火山の正しい知識を学んで、火山マスターになろう」と、本時の課題を提示した。

#### 2 火山について個人で調べる 12分間



生徒は、先生が配布した資料を読んだり、インターネットで調べたりして、火山について分かったことをワークシートに記入。「資料にある2次元コードで動画も見てみよう。ほかの人に説明できるように調べよう」と、浅川先生は生徒に呼びかけた。

#### 3 調べた内容を学習班で共有 6分間



4人の学習班になり、自分が調べた内容を説明し合った。生徒は資料の内容がそれぞれ異なることに気づき、「山が違うよ」「何が書いてある?」と、資料を見せ合った。浅川先生は、「疑問点は、ワークシートの『疑問点』の欄に書こう」と呼びかけた。

\* 席が近い生徒4人で組む、同校においてグループワークの基本となる班。

いと、浅川先生は説明する。

「生徒は、協働学習で、自分が調べた内容とは異なる情報を入手します。そこで火山の多様性を知り、火山といえば富士山を思い浮かべる生徒の固定観念を揺さぶろうと考えました。それも、私の説明ではなく、生徒同士のやり取りの中で『あれっ』と感じ、疑問を抱くことで、その後の学習に当事者意識を持たせようと思いました」

そのねらい通り、生徒からはさらに調べたいという声上がり、次は3つの火山ごとに班を組み直して学び合いを続けた(4)。浅川先生は当初、生徒が火山の形や色など、5項目の違いに着目するだろうと予想していたが、火山ごとへの関心が高かったため、予定を変更した。

「火山ごとの班にしたことで、生徒は1つの火山について詳しくなりました。クラス全体で共有した際には、最初は自分の調べた内容が他者の発言と違うことに戸惑っていましたが、『火山によって違う』と気づいてから

は、発言が多くなりました。多様な意見に触れたことで、生徒それぞれに問いが湧いてきたようです(5)」

最後に、これまでの学習で疑問に思ったことを再び学習班で伝え合い、本時の振り返りを記入した(6)。

ワークシートの「疑問点」の欄には、「地表と地下の深い所で岩石の色が違うのはどうしてだろう」「なぜ火山が爆発したら、雷が発生したり、津波が起きたりするののか」などと、生徒の様々な疑問が書かれていた。次時では、それらを整理して、その後の学習課題を設定し、調べ学習や実験で解決するといった展開を予定している。

「2次元コードで資料の各項目に関する動画を見られるようにしたところ、担当以外の火山の動画まで見て、マグマの色の違いに気づいたり、噴火口の形の違いに着目して調べたりする生徒もいました。私が説明するよりも、生徒はもっと細かく観察し、火山の違いに気づき、疑問を持っていました」(浅川先生)

### 生徒の発言をつなぐ ファシリテーション力が課題

小林校長は、今年度の研究の成果として、生徒の話し合いの様子に変化を感じていると話す。

「生徒は『なぜ、そう思うの?』『これはこうなのでは?』などと互いに疑問を伝え、それに対する自分の考えを述べるといった、研究主題を体現するような姿が見られています。しかも学年が上がるにつれて、それが活発化しています」

今後の課題は、教員のファシリテーション力を高めていくことだ。

「昨年末の校内研修で、教員の持つファシリテーションのイメージがまちまちだと分かりました。教員は話しすぎず、生徒の発言をうまく引き出し、つなげることで、生徒がいつの間にか深い学びに至っているという理想の実現に向けて、ファシリテーションに関する理解を深め、実践力を高めていきたいと思います」(小林校長)

を行うための問いをつくることができる。

#### 4 火山ごとに班を組み、共有 11分間



協働

資料には3つの火山について書かれていることを浅川先生が伝えると、生徒から「自分が調べた火山について詳しく知りたい」という声が上がった。そこで、同じ火山の資料を持つ生徒同士で班を組み、資料を見せ合ったり、調べた内容を伝え合ったりした。

#### 5 クラス全体で共有 9分間



協働

浅川先生は、3つの火山ごとに形や色、噴火の様子などについて、生徒の発言を板書し、2回の班活動の結果をクラス全体で共有。その間、生徒は、「同じマグマが噴火したのに、なぜ形が違うの?」「岩石はなぜこんなに種類があるの?」などとつぶやいていた。

個別：個別学習

協働：協働学習

#### 6 本時の振り返り 5分間



個別

再び学習班で本時の疑問を共有した後、本時の気づきや疑問を「レベルアップを実感できる紙」に記入。浅川先生は、鉱物含有量に関する生徒の疑問を紹介し、「次時からは今日の疑問を基に調べ学習や実験を行い、真の火山マスターになろう」と伝えた。